

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

惣社八幡宮 藤井字宮ノ上

古都庄内に存する神社の惣社であり、古都庄内の神社と考えられる、浮田村大字沼の青津八幡、浮田村大字中尾の熱田八幡、古都村の岡屋八幡、中山八幡、往来八幡、玉井村大字菊山の正八幡の六社の惣社である。

昔から6つの八幡の祭りの日には、それぞれの社の御輿を氏子が奉じて惣社に巡幸し、惣社の社前に参集していた。御輿の街道筋の通行、社前での安置場所について、種々争がおこり、なかなか面倒であった。維新後においても10月11日の祭日には各社の御輿が参集していたが、次第に子の行事が行われなくなり、毎年12の社の御輿が参集するのみになった。

古都庄内には6つの八幡宮が存する。この6つの惣社として藤井に惣社八幡宮がつけられた。6社の祭礼の当日、即ち旧暦8月20日にそれぞれの社の氏子がお輿をかついで参拝を行っていた。この惣社への参集の行事が何時頃はじまったものか不明であるが、古都庄を形成するいくつかの地域の人々が祭りの日に惣社に参集して、よろこびと共に祈願したことからおこったものといえよう。

江戸時代にこのお輿参集の行事が盛に行われ人々の注目を集めていたためか、吉備温故秘録にはこの行事について記されている。

「六社の祭礼は8月19日、20日なり、六社の神輿、藤井村惣社八幡宮の左右両側に出座、左に中尾、沼、菊山、右側に藤井、穴甘、南方なり。此惣社は八幡右六ヶ所の御旅所同時なれば按ずるに此六社を合祠するに依って、惣社八幡宮なり、按ずるに六社の内中尾村八幡は凡六社の上座か、浮田秀家公の折祇中尾村の祠官今に所待す、其文に六社大明神社領の事とあり、宛名も中尾の神主領とあり、又社領高八石也、此八石を右六社に今に分配しなしけるなり、社高一石三斗三升四合」とある。

六社八幡の順位

- | | | |
|-----|-------|----|
| 一ノ社 | 熱田八幡宮 | 中尾 |
| 二ノ社 | 中山八幡宮 | 南方 |
| 三ノ社 | 青津八幡宮 | 沼 |
| 四ノ社 | 正八幡宮 | 菊山 |
| 五ノ社 | 岡屋八幡宮 | 藤井 |
| 六ノ社 | 正八幡宮 | 穴甘 |

※惣社に参集した御輿は鳥居の前の街道に置かれるが、それぞれの社の御輿の安置場所はきめられ、帰還の順序も規定されていた。